



# BLUE BIRD

## 学校だより 第1号

令和8年4月6日発行  
東京都立青鳥特別支援学校  
校長 高橋 馨

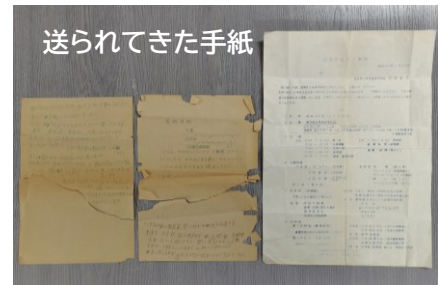
### 歴史ある学校で 新しいことを ～昭和47年からの手紙～

校長 高橋 馨

新年度の始まりとともに、競い合うように芽吹く木々の青葉が、進級した生徒や入学式を迎える新入生の新たな一步を、力強く励ましてくれているように感じられます。令和8年度がスタートしました。

昭和22年(1947年)に開校した本校は今年80年目を迎え、来年度(2027年)が80周年(開校81年目)となります。そのような節目の年の春、本校に一通の手紙が届きました。封筒の中には、昭和47年12月2日に実施された本校(青鳥養護学校)の実践報告会の案内が収められていました。さらに、その案内の用紙に折りたたまれるように包まれた、当時のアンケート用紙と質問用紙が同封されており、そこには、記憶をたどるように、当時の思い出が綴られていました。送り主は、実践報告会が行われた昭和47年(1972年)当時、本校で教育実習をされていた方と思われます。新聞に掲載された硬式野球部の記事をきっかけに、忘れていた資料を見つけ出し、送ってくださったとのことでした。手紙には、初めて養護学校の教育に触れ、驚かれたことが書かれていました。また、実習が遠足や体育祭の時期と重なっていたこともあり、授業はもちろん、授業以外のさまざまな場面で生徒と共に活動する先生方との楽しい思い出が記されていました。また、生徒が自分に話しかけてくれたことや、その笑顔がとても印象に残っていることも述べられていました。そして手紙は、送り主が先に教育実習を終えていた中学校と比較して、青鳥の生徒たちは中学校の生徒たちよりも「楽しそうに努力をしている」ように感じたとの言葉と共に、「(青鳥に)実習に行かせてもらったことが、今も役に立っています。ありがとうございます」という感謝の言葉で締めくくられていました。

同封されていた実践報告会の案内には、「スペーサーブロック」や「ベルトコンベア作業」といった公開授業の記載も見られました。学校の記録をひもとくと、「スペーサーブロック」は商品生産作業の一つとして昭和42年から平成に至るまで30年近く継続され、その製品は今も校長室に残されています。一方で、「ベルトコンベア作業」は3年ほどで終了していることも分かりました。



昭和47年がどのような時代だったのか、当時の社会状況を振り返ると、「沖縄の本土復帰」「日中国交正常化」「パンダの来日」「田中角栄内閣の誕生」「札幌冬季オリンピック」など日本が大きな転換期を迎えていた時代でもありました。高度経済成長の勢いを保ちながらも、豊かさの中で新しい課題と向き合いはじめた、いわば時代の分岐点ともいえる年であったようです。そのような時代の中で、変化していく生徒の実態や社会のニーズに応じるように、さまざまな挑戦を重ねていた当時の本校の様子も、この手紙から伝わってきました。

このように本校ならではの歴史を振り返ったとき、少子高齢化やDX、刻々と変化する国際情勢、そして教員不足と働き方改革など、現在の学校を取り巻く環境の変化や厳しさが増す今だからこそ、「積極的に新しいことへ挑戦を」と、先人の記録に諭されているようにも感じました。節目となる80年目の今年、そして次の10年に向けたスタートとなる来年度の80周年(開校81年目)を、新たな挑戦のきっかけとして、これまで以上に着実に学びと努力を積み重ねていけるよう、教職員一丸となって努めてまいります。80年目の今も、生徒たちの「楽しそうに努力している」姿が、保護者の皆様だけでなく広く地域にも伝わるよう、引き続き『優しく』を、すべての取組の基本姿勢として大切にし、本校ならではの学びの歴史を重ねられるよう努めてまいります。

今年度も、保護者、地域、関係機関の皆様の変わらぬ御理解と御支援をよろしくお願いいたします。